

骨粗鬆症の患者管理を深く学ぶ

公益財団法人運動器の健康・日本協会
脆弱性骨折予防委員会
担当理事 萩野 浩
(山陰労災病院 院長)
委員長 山本 智章
(新潟リハビリテーション病院 院長)

高齢者の骨折は医療費や介護費の負担を増加させている重大な疾患との認識が社会に広がっています。その1つとして大腿骨近位部骨折の二次性骨折予防が管理料として診療報酬上の加算が設定されて多くの医療機関が骨粗鬆症治療に取り組んでいます。

骨粗鬆症の患者管理として重要な項目は①正しい骨粗鬆症診断のスキル、②骨粗鬆症薬剤治療のリスク管理、③治療継続のための患者管理としてリハビリテーション、栄養、口腔ケアです。

今回は上記の3項目についてエキスパートの先生方にオンライン講義をしていただきます。

地域高齢者の健康長寿のために骨粗鬆症と戦う皆様の日々の診療に少しでも役立つことを願っています。

1) 骨粗鬆症性椎体骨折の鑑別診断とピットフォール

脆弱性骨折予防委員会 委員 宮腰 尚久
(秋田大学大学院整形外科学講座 教授)

主に椎体骨折に焦点を絞って解説する。骨粗鬆症で最も頻発する椎体骨折は、転移性脊椎腫瘍や悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などとの鑑別を要する。主に画像上の特徴から、これらを鑑別するためのポイントを、実例を用いて解説する。

2) 骨粗鬆症薬剤治療の有害事象を考える

脆弱性骨折予防委員会 委員 沖本 信和
(広島県呉市・沖本クリニック 院長)

骨粗鬆症治療薬が多く使われているが効果だけでなく、その副作用についても知っておく必要がある。医薬品を扱う上で最重要である添付文書読解のポイントや各種骨粗鬆症治療薬の副作用について解説する。

3) リハビリテーションにおける栄養

脆弱性骨折予防委員会 委員 田中 雅博
(大阪府・りんくう永山病院整形外科リハビリテーション部長)

2024年診療報酬改定ではリハビリテーションにおける栄養、口腔機能の重要性が注目されている。リハビリテーションの観点から栄養、口腔機能について概説する。